

安 俵 6 区 遺 跡

安俵6区遺跡は、東和総合支所から南西に約500mの場所にありま
す。東和町安俵地区は周囲を丘陵山地に囲まれた盆地状の地形で、南
側には猿ヶ石川が東から西へ流れています。この遺跡では「道の駅
とうわ」周辺の開発工事や県道北上・東和線の道路拡張などで平成7
・9～11年に発掘調査が行われました。

調査では、縄文時代後期（約4,000年前～3,500年前）の環状配石
遺構（石を円形に並べた住居状のもの）が8基、土器捨て場、江戸時
代以降の水路跡が10条見つかりました。遺物は土器捨て場で主に見
つかり、縄文土器や石器、土製品や土偶、動物や魚の骨など収納用
のコンテナで390箱も出土しました。他に石器を作る際に剥離した
石核や剥片など約300kgも見つかりました。石鏃が約1,100点と他
の石器に比べて突出しており、ここで石鏃を制作していたのかもしれ
ません。土器をそのまま小さくした形態をもつミニチュア土器
も破片を含めると約300点出土しており、一部には赤い漆を塗った
朱塗りのものもあります。これだけまとまった量が出土していると
いうことは環状配石遺構や沼の周辺で何らかの祭祀的な儀式やお祭
りなども行われていたのかもしれない。

安俵6区遺跡周辺は大昔の言い伝えで、大沼がありところどころ
に中島があったとされています。縄文時代は沼で魚や貝などを捕り、
いつのころか猿ヶ石川の流れも変わり、大沼も干潟や谷地にならな
っていき、後の時代は人々を育む穀倉地帯へと変化し用水を設け水路
を引き、耕作しやすい水田に形を変える努力をしていったものと見
られます。

今もむかしも豊富な水源で人々の暮らしを豊かにしています。